

重点取組分野	令和 元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①重点研究に「算数」を取り上げ、自分の考えを表現し、伝え合う活動を通して、思考力・表現力を高め合う子どもの育成を目指す。思考力が高め合えるような単元・授業づくりや思考の過程が見えるような教師の手立てや場の工夫をする。 ②教科等間の相互の関連付けや横断を図り、年間の学習プランを立て、実践し、改善していく。	①課題を把握し、解決に導く過程は、教師・子ども共にはっきりしてきた。子どもの思考力の高まりも感じた。課題を「深める」場面について、話合いに代表されるような子ども同士の高め合いができるような授業づくりは今後も課題として研究する必要がある。 ②教科等間の相互の関連付けや横断を図り、教科や学年で年間の学習プランを立て、実践し、よりよい教育活動によるよう改善した。	B
豊かな心	①継続的にあいさつ運動を行い、自ら進んであいさつする子どもの育成を目指すとともに、家庭や地域と連携しながら、さまざまな行事を通して体験を共有することで子どもの自尊感情を育て、自分を大切にすることを育む。 ②定期的なたてわり活動を通して、異学年との交流を深め、他者との関わり方を学ぶとともに思いやりの心を育む。	①あいさつについては毎月のふり返りやあいさつ運動によって概ねできていた。引き続き教職員の意識も高まり、進んであいさつできる子どもも増えていく。自尊感情を育てていくために、今後も、誰もが安心して授業に参加できるような授業づくりを行っていく。 ②年間を通してたてわり活動を行ったことで、異学年との関わり方を学べた児童が多かった。今後さらに、人に対して思いやりや優しさの心を育てていきたい。	B
健やかな体	①月1回のすくすく委員会、年2回のすくすく会議を開催し、児童が自ら考え、全学級で主体的に自分達の健康の保持増進を図る。 ②いきいきタイムを活用し、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上と健全な心身の育成を図る。	①すくすく委員会がそうじの大切さや方法を発信することで、全校児童のそうじと健康に関する知識が高まり、身の回りをきれいにしようという意欲が増した。 ②毎週木曜日にいきいきタイムを実施し、運動への興味関心とともに、体力の向上を図ることができた。また、前半は長縄、後半はベース走を行うことができた。	A
児童生徒指導	①児童支援専任を中心に、児童指導部会、職員会議、学年研究会等で、児童の共通理解を図り、全職員で共有して指導に当たるとともに、職員研修の充実を図り、児童理解、児童指導・支援のあり方について学び、実践する。 ②児童一人ひとりに、よりよい指導を行うことができるように、学校カウンセラーや関係機関との連携を充実	①職員会議内の児童理解を生かし児童の状況を全職員で共通理解し、指導に当たった。児童理解研修については、本校児童に合わせた内容を時期も考慮し計画的に行っていく必要がある。 ②指導の充実のための機関連携はSC・SSWを中心に充実させることができた。	A
地域連携・学校運営協議会	①生活科や総合的な学習などで、地域の材を生かした学習に取り組み、地域への理解を図るとともに、地域に関わろうとする態度や大切にしようとする気持ちを育む。 ②年3回学校運営協議会を実施し、学校教育についての理解を深めるとともに、協議会での意見を教育活動の改善につなげる。	①生活科や総合的な学習を中心に、地域の材を生かした授業づくりに取り組むことができた。児童の地域への理解を深めることにつながった。 ②年3回の学校運営協議会を行い、教育活動についてご意見をいただいた。また、いただいたご意見を学校教育活動に生かすことができた。	B
特別支援教育	①さわやか教室や国際教室での「取り出し」指導を効果的に行い、配慮を要する児童の指導・支援を充実させる。 ②学校カウンセラーや関係機関との連携を活用した児童理解をもとに、個々の指導・支援を充実させたり、指導・支援の共通化を図ったりするとともに、指導の経過が確実に引き継がれるよう、個別的教育支援計画・指導計画	①取り出しの学習内容を担当者・担任・保護者の三者で共有することで、より効果的な指導を行うことができた。 ②個別的教育支援計画・指導計画等への記入の機会を全体会として設けたことで、職員が共通理解を深めることができた。	A
いじめへの対応	①教科分担任制を取り入れて複数の目で児童一人ひとりを見取ったり、年3回のアンケートや児童面談を行ったこと、いじめの早期発見、迅速な対応に努める。 ②担任と児童支援専任の連絡を密にしていくとともに、月1回のいじめ防止対策委員会を開き、教職員全体で情報共有に努め、いじめの解消に向けて取り組む。	①複数の目で児童を見取ることにより多角的な視点から児童への支援を行うことができた。アンケートや児童面談は児童理解、いじめの早期発見において有効であった。 ②担任と児童支援専任との連携は必要に応じて密に行うことができた。月1回の対策委員会では他学年の情報も共有し、学校全体の課題として解決に向け取り組んでいくことができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームでは、教科や評価についての研修会や授業研究など、月1回の研修活動を行い、教職員としてのスキルを高める。 ②教科分担任を取り入れるなどして、教職員としての資力向上を図るとともに、協働して学校運営を行う。 ③職員の時間外勤務を昨年度より減少させるためにプロジェクトチームを中心に、教育内容、事務内容の精選と運用の工夫を行う。	①定期的にメンター研修を開き、授業研究や児童指導の在り方についてチームで深めることができた。 ②全ての学年で教科分担任を取り入れることで、教科の授業づくりを重点的に研究することができた。また、学年で協働して学校運営にあたることができた。 ③プロジェクトチームを中心に、事務内容について見直しや、改善できる点は変えていくことができた。教育内容の精選と工夫は今後の続けていきたい。	A
ブロック内評価後の気付き	○小中担当者会において、それぞれの学校のカリマネの取組状況について情報交換をしたことにより、自校の取組に生かしたり、ブロックで大切にしたい点などの確認をしたりすることができた。 ○年間2回の授業研究会や、児童生徒交流日での交流を通して、ブロックにおけるめざす子ども像を意識して授業づくりをすることができた。今後も、めざす子ども像、つきたい資質能力を意識して、授業や行事、日々の学校生活を作っていくことが大切である。		
学校関係者評価	○育てたい資質・能力を意識して授業改善に取り組んでいることが伝わってくる。今後は、行事のねらいを資質・能力を意識して見直ししたり、具体的にどのような姿を目指すのか共通理解を図ったりしてもらいたい。 ○国際教室での指導や取り出し指導など、特別支援教育の体制が整い、指導の充実にも力を入れていることがわかる。保護者の支援も含め、一層の充実をお願いしたい。 ○保護者・児童・教職員の評価に差がある要因を分析し、次年度の取組の具体策を検討したり、保護者		

重点取組分野	令和 2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①新学習指導要領にあわせ、本校のカリキュラムマネジメントの作成を行い、浦島小の児童の実態に合わせたものにする。そのために、プログラミング教育や外国語教育等といった新しい分野の研修を積み重ねて反映すると共に、授業を伴った検証を行い、改善を進めていく。 ②浦島小の資質・能力を意識した単元・授業づくりを行い、研究を行うことができる。視点が多岐に亘ったため、一つ一つを掘り下げることが困難であった。教員と子どものニーズを回りながら、次年度の研究主題を検討したい。	①新学習指導要領に準拠したカリキュラムをどう作成していくか、研究会を通して教員が意識して実行できた。コロナ禍において研修の実施等が少なかつたため、来年度はその点も充実させたい。 ②浦島小の資質・能力を意識した単元・授業づくりを行い、研究を行うことができる。視点が多岐に亘ったため、一つ一つを掘り下げることが困難であった。教員と子どものニーズを回りながら、次年度の研究主題を検討したい。	B
豊かな心	①あいさつへの意識も高くなり、1年間継続的に取り組んでいくことができるよう、年間計画を立てて児童が主体的に行えるよう、定期的な振り返りと目標設定をする機会をつくる。自尊感情を育てていくことのできるよう、人権的な視点やIPプログラムの考え方も取り入れた授業づくりが行えるよう、児童指導部から活動案を発信していく。 ②今年度は、資質能力を明確にしたことで、たてわり活動を充実させることができた。また、教師が遊びを企画したことで、どのグループも偏りなく、他者との関わりを意識して活動することができた。	①月ごとのあいさつ目標を立て、学級で毎月振り返りを行うことで、1年間継続的に取り組むことができた。ただし、明確な基準があるものではないので、評価にばらつきが生じてしまっている。子どもに求める姿を全職員で共通理解し、指導できるようにしていく。 ②今年度は、資質能力を明確にしたことで、たてわり活動を充実させることができた。また、教師が遊びを企画したことで、どのグループも偏りなく、他者との関わりを意識して活動することができた。	B
健やかな体	①児童自らが自分たちが健康に過ごすために大切なことを考え、行動に移していけるように工夫する。 ②いきいきタイムでは、長縄や短縄、ベース走に取り組む、運動への興味関心を高めるとともに、体力の向上と健全な心身の育成を図る。	①児童自らが自分たちが健康に過ごすために大切なことを考え、行動に移していけるように工夫する。 ②いきいきタイムでは、長縄や短縄、ベース走に取り組む、運動への興味関心を高めるとともに、体力の向上と健全な心身の育成を図る。	B
児童生徒指導	①職員会議、児童指導部会での情報の共有を図るとともに、関係機関の協力を得て、本校の児童の実態に応じた研修を充実する。児童指導年間計画に基づき全校でふれのない指導を行っていくことできるように、学年研などで定期的な振り返りを行う。	全職員で児童の情報共有をしながら、児童指導を行い、校内で、本校の児童の実態に応じた研修を行うことができた。児童指導年間計画に基づき全校でふれのない指導を行っていくことできるように、学年研やA部会などで定期的な振り返りを行った。	A
地域連携・学校運営協議会	①生活科や総合的な学習などで、地域の材を生かした学習に取り組み、地域に関わろうとする態度や大切にしようとする気持ちを育む。 ②年3回学校運営協議会を実施し、学校教育についての理解をより深めていただくとともに、協議会での意見を教育活動の改善につなげる。	①今年度は、地域の材を生かすことができなかった。しかし、コロナ禍でもできる範囲で校内の交流を充実させることはできていた。	B
特別支援教育	①さわやか教室や国際教室での「取り出し」指導を効果的に行い、配慮を要する児童の指導・支援を充実させる。 ②個別的教育支援計画・指導計画等への記入の機会を全体会として設けることで、児童のアセスメントをしっかりと行い、確実に計画を引き継いでいくことができていく。	①児童の苦手に寄り添った学習を重ねることで、本人の学習意欲をひきだすことができた。クラスの児童も応援する雰囲気が出てきた。 ②個別的教育支援計画・指導計画等への記入の機会を全体会として設けることで、児童のアセスメントをしっかりと行い、確実に計画を引き継いでいくことができていく。	A
いじめへの対応	①対策委員会や児童指導部会、未然防止のための学年風土づくりについて話題化し、学年に応じた具体的な取組を考える。②引き続き、認知したいじめ案件を管理し、月1回の対策委員会と他学年の情報も共有し、学校全体の課題として解決に向け組織的に取り組む。	①児童指導部会、未然防止のための学年風土づくりについて話題化し、学年に応じた具体的な取組を考えられた。 ②認知したいじめ案件を管理し、月1回の対策委員会と他学年の情報も共有し、学校全体の課題として解決に向け組織的に取り組むことができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①年間を通してメンター研修を行い、授業力など教職員としての力をより高めたい。 ②全学年で教科分担任制を取り入れ、授業づくりの力を高めたり、協働して学年経営にあたりたい。高学年ではチーム学年経営を取り入れ、より円滑な学校運営にあたる。 ③教育内容の精選と工夫に取り組む。	①今年度は、自分たちでより知りたいたいことについて調べ、発表する機会を設けた。先輩教諭の方から聞く研修だけでなく、自分たちで調べ発表することで、活発な交流ができ、充実した研修になった。	A
ブロック内評価後の気付き	○今年度は授業研究会は実施できなかったが、教科・領域ごとに意見交換の場を設けることができた。そこで、各校のカリキュラムや目指す児童生徒の姿についての共有ができた。また、評価についての情報交換も有意義なものであった。 ○紙面や映像での児童生徒交流となったが、小中のつながりを意識した内容となった。 ○小中担当者会において、それぞれの学校の情報交換をしたことにより、共通で取組ことを確認したり、自校の取組に生かしたりすることができた。		
学校関係者評価	○コロナ禍の中、新しい生活様式に基づいて、元気に学校生活が送れていることが伝わってくる。 ○学校運営協議会委員に学校の評価結果等を書面でお知らせした。		

重点取組分野	令和 3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①情報機器を有効に活用した授業の在り方を幅広く研究していく。 ②学習指導要領に基づいて、教育課程全体で育成を目指す資質・能力を意識し、教科等間の相互の関連付けや横断を図った年間の学習プランを立て、実践し、改善する。	①今年度導入の1人1台のタブレット端末の有効的な活用方法について全職員で研究に取り組み、成果と課題が明確になった。今後、課題点については追究していくとともに、授業におけるよりよい情報機器の活用方法についても考えていきたい。 ②学校全体で育てたい資質能力について、カリキュラムの見直し等を行ってきた。PDCAサイクルが定着しつつある。今後よりよい内容になるように検討していきたい。	B
豊かな心	①相手意識をもって1年間継続的にあいさつができるように、年間計画を立て、定期的な振り返りと目標設定をする機会をつくる。 ②年間を通して、資質能力を明確にした定期的なたてわり活動を行う。異学年との交流を深め、他者との関わり方を学ぶとともに相手のことを考えて行動する力や思いやりの心を育む。	①あいさつ目標を立て、月ごとに児童が自分自身を振り返る機会を設けることができた。それらが、つぎの目標につながる年間を通して意識をもつことができた。 ②コロナ禍で活動内容に制限もあったが、高学年が中心となり充実したたてわり活動が実施できた。児童のアンケートからも、関わり合いができたという回答が多かった。今後、教職員でたてわり活動を通して育てたい資質能力をより明確にして、全職員で全校児童を育てることを大切にしていきたい。	B
健やかな体	①児童自らが自分たちが健康に過ごすために大切なことを考え、行動に移していけるように工夫する。 ②いきいきタイムでは、長縄や短縄、ベース走に取り組む、運動への興味関心を高めるとともに、体力の向上と健全な心身の育成を図る。	①児童自らが自分たちが健康に過ごすために大切なことを考え、行動に移していけるように工夫する。 ②いきいきタイムでは、長縄や短縄、ベース走に取り組む、運動への興味関心を高めるとともに、体力の向上と健全な心身の育成を図る。	B
児童生徒指導	①職員会議、児童指導部会での情報の共有を図るとともに、関係機関の協力を得て、本校の児童の実態に応じた研修を充実する。児童指導年間計画に基づき全校でふれのない指導を行っていくことできるように、学年研などで定期的な振り返りを行う。	①教職員間での情報共有を細やかに行うことができた。また、他の機関の協力を得て、児童理解につながる研修を行うことができ、日々の指導に役立てることができた。学年間や全校でふれのない指導が行えるように、学年研やA部会を中心に振り返りや共通理解を図ることができた。	A
地域連携・学校運営協議会	①生活科や総合的な学習などで、地域の材を生かした学習に取り組み、地域に関わろうとする態度や大切にしようとする気持ちを育む。 ②年3回学校運営協議会を実施し、学校教育についての理解をより深めていただくとともに、協議会での意見を教育活動の改善につなげる。	①とくに生活科で地域の材を活動しての学習展開ができた。 ②3回の学校運営協議会を開き、委員の方々からご意見を伺うことができた。今後、学校運営協議会を実施していることや協議会の内容を保護者の方へより発信していきたい。	B
特別支援教育	①さわやか教室や国際教室の取り出し指導を効果的に行い、配慮を要する児童への指導・支援を充実させる。 ②一人ひとりに合った指導・支援を充実させるために、学校カウンセラーや関係機関と連携し、教職員の特別支援教育への知識・理解を深める。	①特別支援コーディネーターと各教室担当者、担任が情報共有をしながら、配慮を要する児童への指導・支援を丁寧に行うことができた。今後、さわやか教室の在り方については検討していきたい。 ②他機関の関係者からの助言等を参考にしながら、一人ひとりに寄り添った指導・支援ができるように取り組んだ。	A
いじめへの対応	①対策委員会や児童指導部会、未然防止のための学年風土づくりについて話題にし、学年に応じた具体的な取組を考える。 ②認知したいじめ案件を管理し、月1回の対策委員会と他学年の情報も共有し、学校全体の課題として解決に向け組織的に取り組む。	①月1回の対策委員会の実施や職員会議での情報共有などを行い、いじめの未然防止に全職員で取り組むことができた。 ②認知したいじめ案件について、迅速に対応し、職員間で情報共有ができた。また、長期的、定期的に指導・支援を行うこともできた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①年間を通してメンター研修を行い、授業力など教職員としての力をより高めたい。 ②全学年で教科分担任制を取り入れ、授業づくりの力を高めたり、協働して学年経営にあたりたい。高学年ではチーム学年経営の研究を通し、授業力の向上や学級経営力の向上、時間の有効な活用方法の在り方について今後研究していきたい。	①年間を通してメンター研修を行い、授業力など教職員としての力をより高めたい。 ②全学年で教科分担任制を取り入れ、授業づくりの力を高めたり、協働して学年経営にあたりたい。高学年ではチーム学年経営の研究を通し、授業力の向上や学級経営力の向上、時間の有効な活用方法の在り方について今後研究していきたい。	A
ブロック内評価後の気付き	○今年度も授業を見合う研究会は実施できなかったのは残念だった。映像などで児童・生徒の授業での様子を見合うことも今後は検討していきたい。 ○児童・生徒の交流もできなかったが、DVDでの交流などできる限りのやりとりができ、小学校から中学校へのつながりがもてた。 ○担当者会では、情報交換を密に行うことで、ブロック内の連携を図ることができた。また、自校の取組に活かすことができた。		
学校関係者評価	○コロナ禍で制限もある中、工夫した教育活動の取組がされていることが伝わる。 ○カリキュラムの見直し等に伴い、行事や今まで当たり前と思われていたことも考え直すことになる。学校で十分に検討したことを、保護者や地域にも伝えていくことが大切になる。		

中期取組目標振り返り
 中期学校経営方針が生きたものになるために、職員が意識できるように作成にかかわること、PDCAサイクルを確立していくこと、職員の目標設定に生かすようにすること、これらを整えることができた。働き方改革への道筋ができ、職員や保護者、地域とともに取り組むことができた。授業力の向上について、資質・能力を具体的に落としこくまで進んだので、授業や行事で検証しながら実現に向けて取り組む。特別支援は人員の工夫を次年度に向け実施していきたい。人権意識の向上に向けた教育活動の工夫についてより推進できるようにプランを考えるようにする。

中期取組目標振り返り
 感染症対策のために思うように活動できない面があった。多様な人と学ぶ面や、地域のかかわりを生かすという面では、コミュニケーション力を意識することで、友達との学びは意識できたが、人とのつながりを広げるのが困難だった。このような状況下での人権意識の高まりや、地域の教材化について検討したい。課題解決を意欲し、育てていくことが持続的な社会を目指す人材育成につながるかと考えている。SDGsを意識した単元づくりも意識できればと思っている。働き方の改善への意識は高まってきている。引き続き客観的に働き方とらえ、改善につなげていきたい。

中期取組目標振り返り
 職員の働き方改革については教育の質を落とさずに改善を進めるといった段階に入ってきた。すべての職員の意識を高めた。育てたい資質・能力についての意識は高まってきたので、実践力を高めることと、自己肯定感についての共通理解をさらに進めていく必要がある。いじめ防止の取り組みは専任を中心に組織的に対応し、大きな問題がなく進めることができた。担当を中心にIT機器のスキルは高まり、リモートへの対応も進んだ。今後定期的に深めていく機会を設けていくようにする。授業力をさらに高めるために、育てたい資質・能力と授業スタイルの関係に気付き、深めていくように重点研究などの活用を